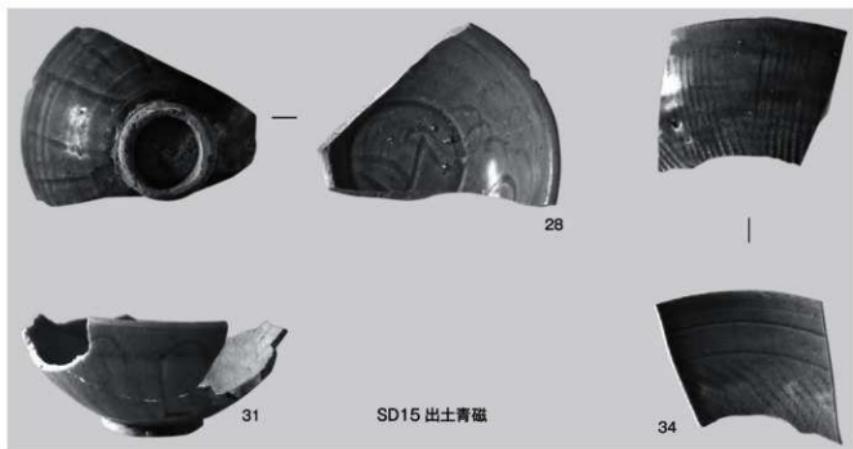


Fig.6 SD15 出土遺物実測図 1 (白磁 1/3)



SD15 出土青磁

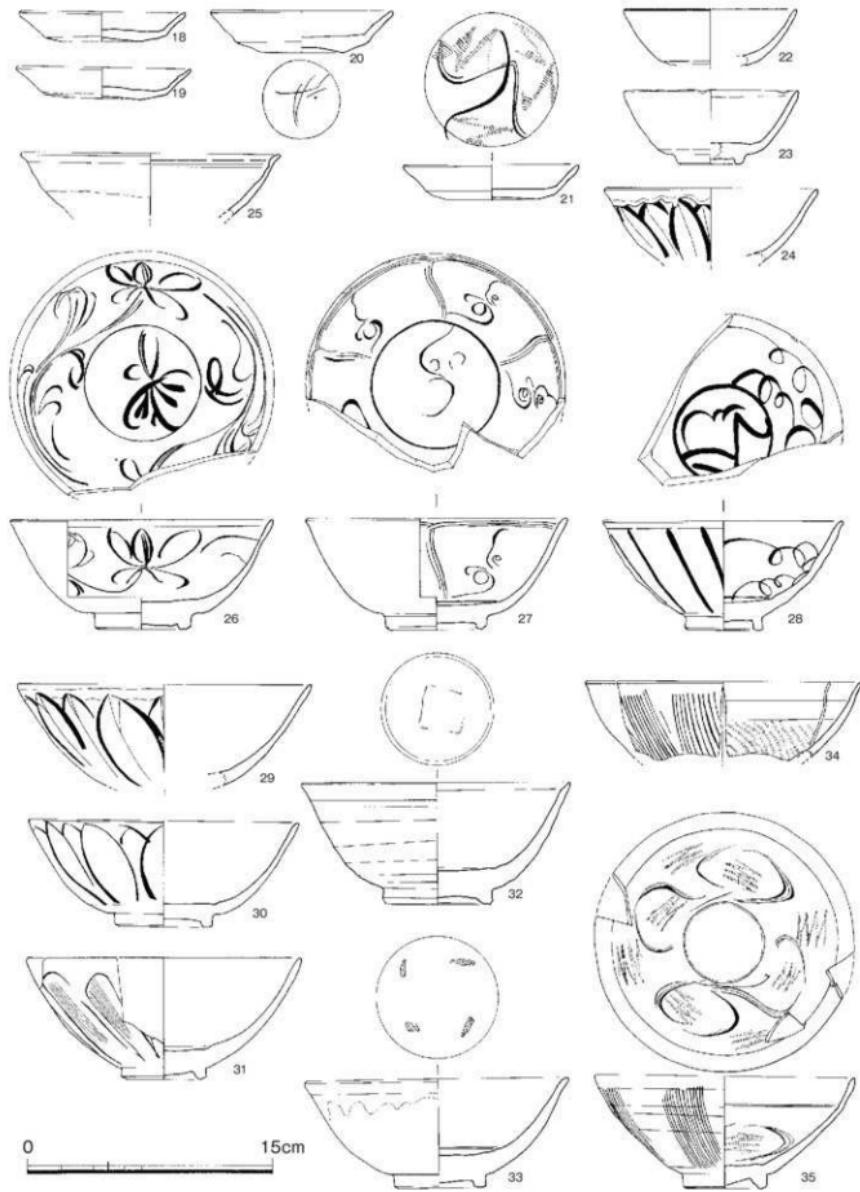


Fig.7 SD15出土遺物実測図 2 (青磁 1/3)

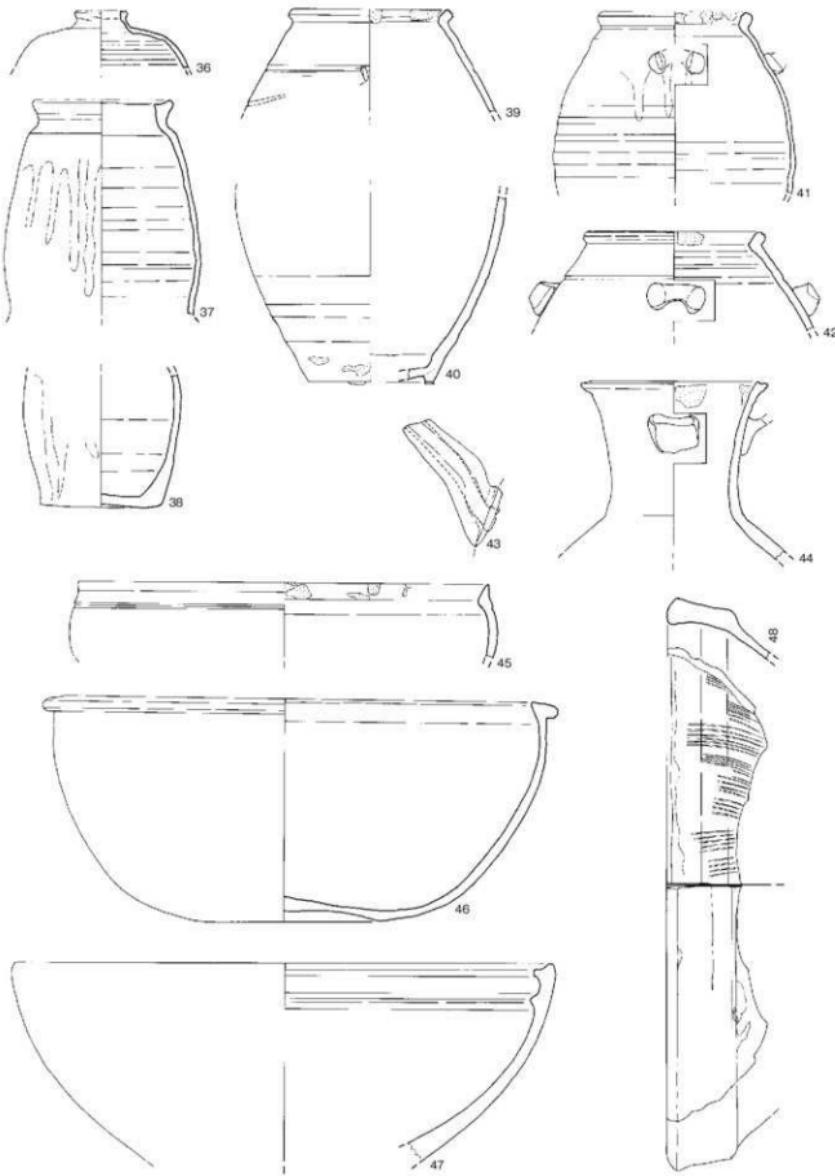
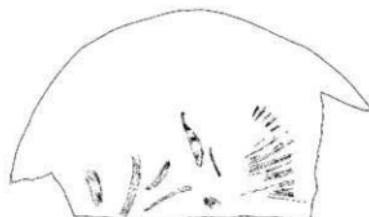
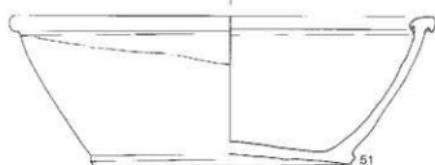


Fig.8 SD15 出土遺物実測図 3 (陶器 1/3)

0

15cm



0

15cm

15cm

52



49



51

Fig.9 SD15 出土遺物実測図 4 (陶器 1/3)

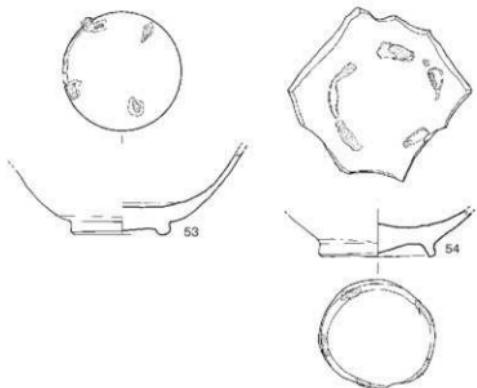


Fig.10 SD15出土遺物実測図 5 (目跡が残る青磁 1/3)

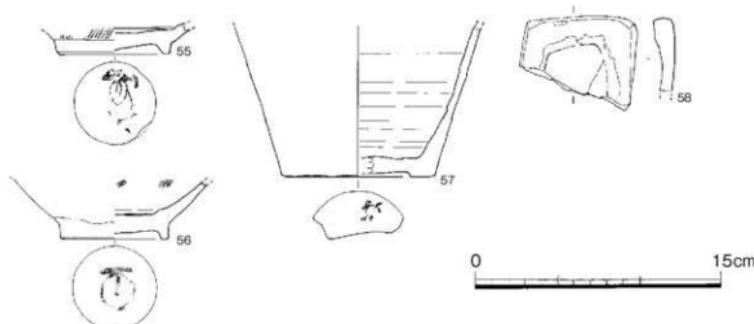


Fig.11 SD15出土遺物実測図 6 (墨書き器・転用硯 1/3)

#### 土師器皿(Fig.13)

66~75は底部ヘラ切り、他は糸切りである。66~74は底部に弯曲がみられる。

1類(66~70)

底部はヘラ切りで弯曲する。底部の器壁が薄い。口径は9.4cm前後を測る。

2類(71~74)

1類と近似するが、底部が厚い。口径は9.0~10.4cmまでばらつきがある。

3類(75)

底部はヘラ切りであるが平坦である。底部の器壁も厚い。口径9.1cmを測る。

4類(76~78)

糸切りの底部は平坦で器壁が厚い。口径8.0~8.4cmを測る。

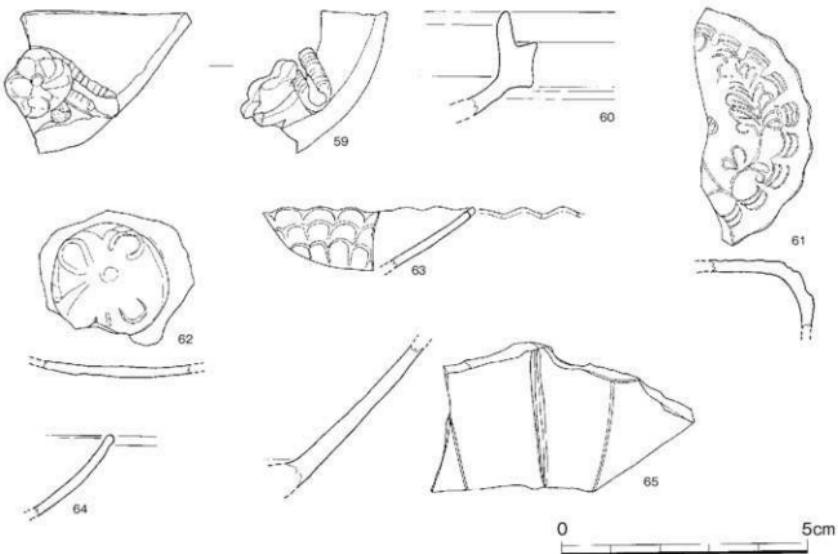


Fig.12 SD15 出土遺物実測図 7 (合子・青白磁・白磁小椀 1/1)

#### 5類(79~84)

底部は糸切り。4類同様に底部は平坦で厚い。口径が大きくなり、8.8~9.8cmを測る。

#### 6類(85、86)

底部は糸切り。歪が大きく形態が不明である。底部の器壁は比較的薄い。

#### 7類(87~91)

糸切りの底部は上げ底となっている。底部の器壁は比較的薄い。体部が開いた87、88の口径が小さく8.4、8.6cmを測るが、89~91は9.3cm前後である。

#### 8類(92~94)

糸切りの底部は平坦で厚い。体部も短い。93が最も新相を示す。口径8.7~9.3cmを測る。

#### 土師器坏

#### 1類(95~99)

体部の中位で弱く屈曲し、ヘラ切りの底部は丸底に近い。器壁は比較的薄い。98は口径が最も大きく16.2cmを測り、底部の弯曲が大きい。98以外の口径は15.6cm前後を測る。

#### 2類(100~109)

体部と底部の境が明瞭となる。ヘラ切りの底部は弯曲が小さくなり、器壁が厚くなる。口径14.4~15.0cmを測る。

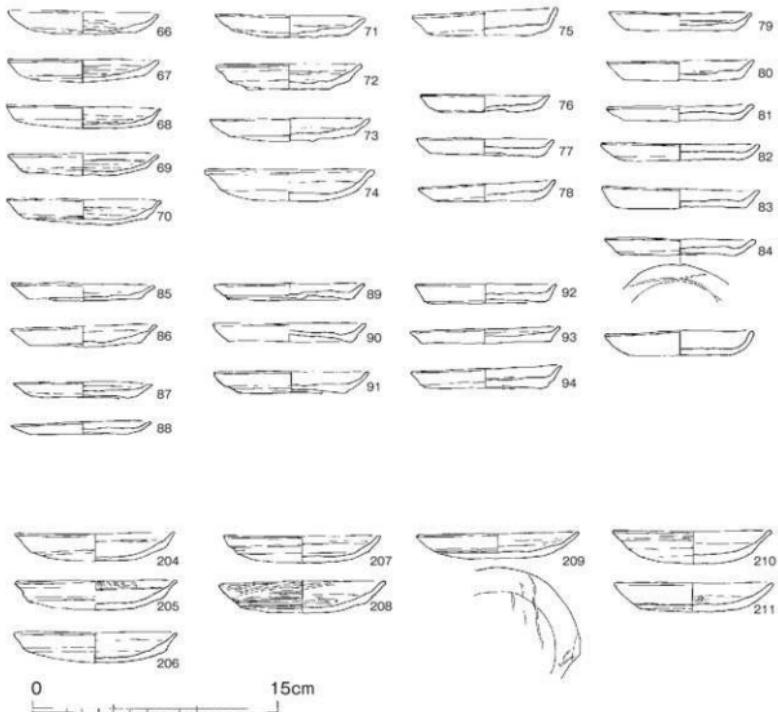


Fig.13 SD15 出土遺物実測図 8 (土師皿、瓦器小皿 1/3)

3類(110、111)

ヘラ切りの底部が平坦となる。110は口径14.6cmを測り、底部は厚い。111は口径15.0cmを測る。

4類(112~114)

ヘラ切りの底部はわずかに丸みがある。体部の器壁は薄く、均等な厚みで立ち上がる。

5類(115、116)

糸切りの底部から内弯した体部が立ち上がる。口径16.0cm前後を測る。

6類(117~119)

糸切りの平坦な底部から直線的に開いた体部が延びる。口径14.8~15.9cmを測る。

7類(120)

器高が高く、糸切りの底部は小さい。口径15.6cm、底径8.4cm、器高4.0cmを測る。

瓦器小皿

1類(204~209)

体部中位で屈曲し、丸底に移行する。口径10.0cm前後、器高1.5~2.0cmを測る。

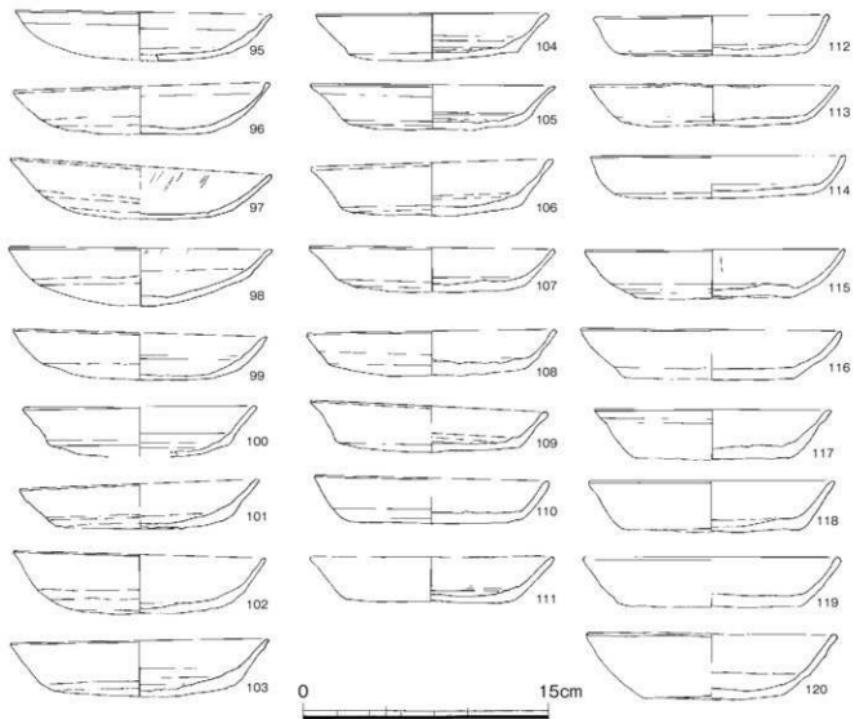


Fig.14 SD15 出土遺物実測図 9 (土師器 壁 1/3)

#### 2類(210、211)

体部の屈曲が弱く、底部が平底に近くなる。口径も1類に比べ小さくなり、9.7cm前後となる。

#### 瓦器椀

#### 1類(121~132)

底部が丸く、体部の開きが小さい。129の口径17.6cmを除くと口径16.0~16.6cmに収まる。高台を入れない椀部の器高は5.2~5.4cmを測り、口径に対して深い感じを受ける。

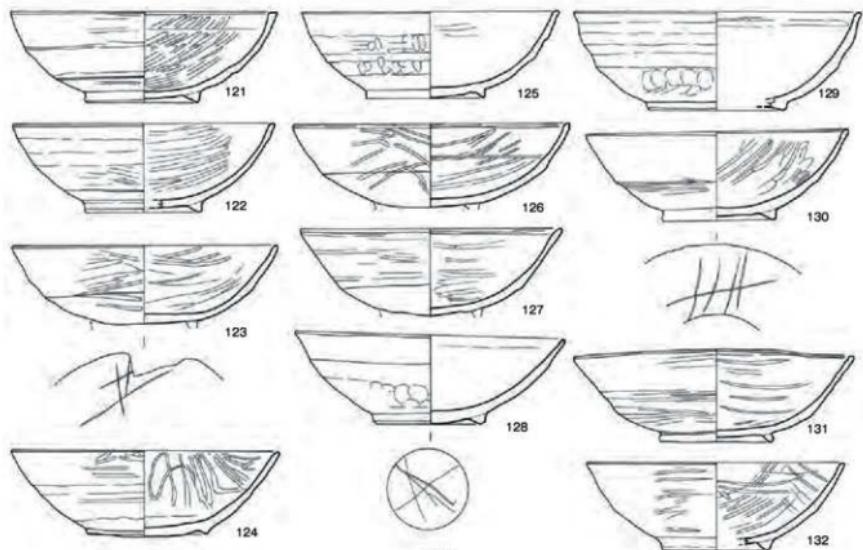
#### 2類(133~141)

底部が丸く、体部の中位に弱い屈曲を有す。135の口径15.3cmを除くと口径16.6~17.2cmに収まり、1類より大きい。椀部器高は4.8~5.3cmを測り、1類より浅い。

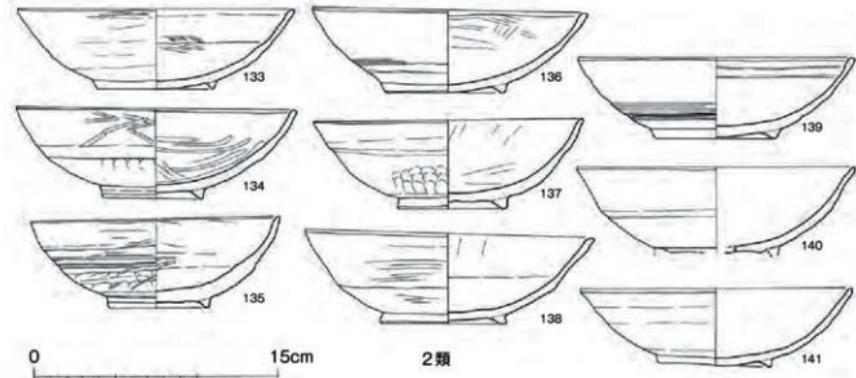
#### 3類(142~153)

底部の丸みが無くなり、中心付近が水平となる。そのため、口径に対して低平となる。

a. (142~147) 底部の弯曲や器高が2類に近い。口径は142、143が16.0cm前後であるが、他は17.0cmを超える。

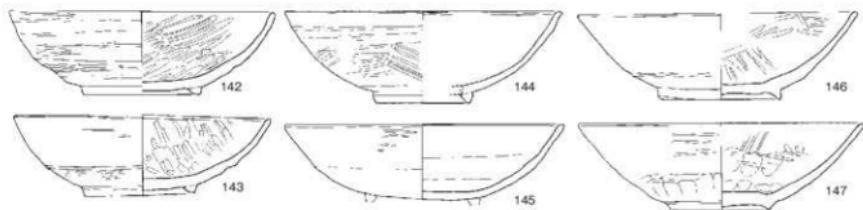


1類

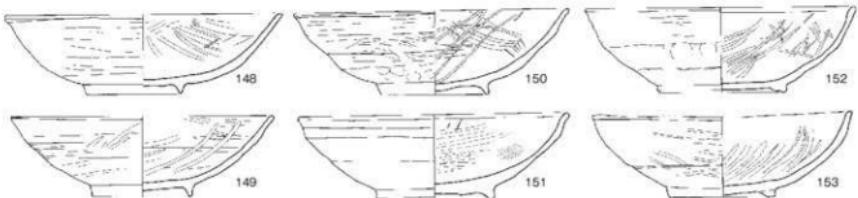


2類

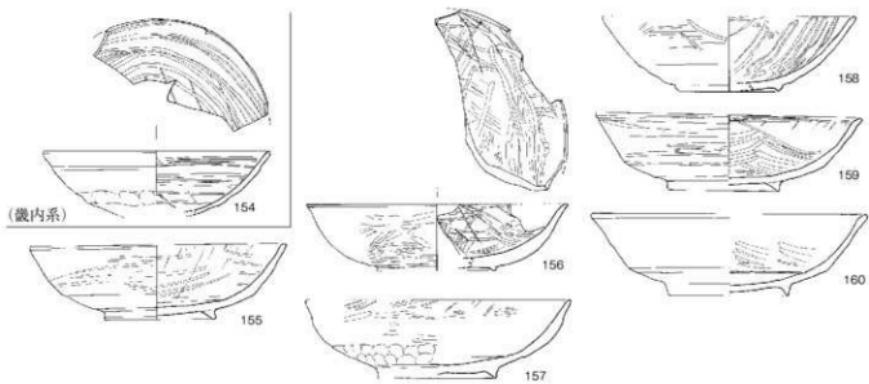
Fig.15 SD15 出土遺物実測図 10 (瓦器 梱 1/3)



3 a類



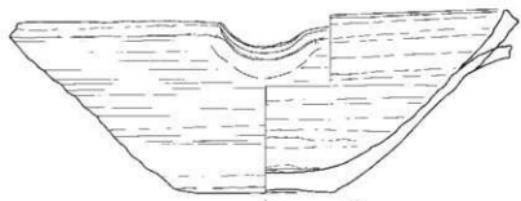
3 b類



4類



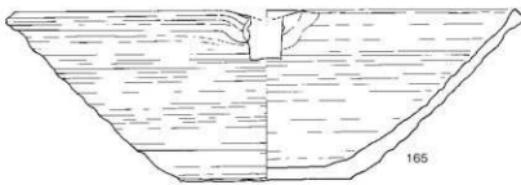
Fig.16 SD15 出土遺物実測図 11 (瓦器 槌 1/3)



163



164



165



166



167

0 15cm

Fig.17 SD15 出土遺物実測図 12 (須恵質 捏鉢 1/3)

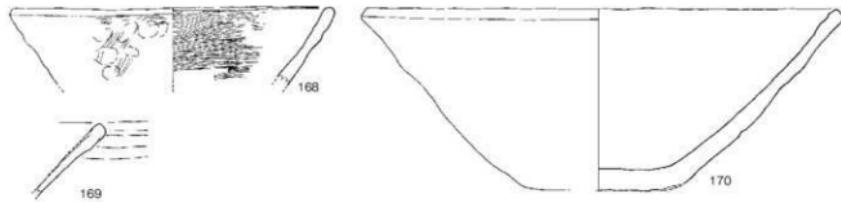


Fig.18 SD15 出土遺物実測図 13 (土師質 捏鉢 1/3)

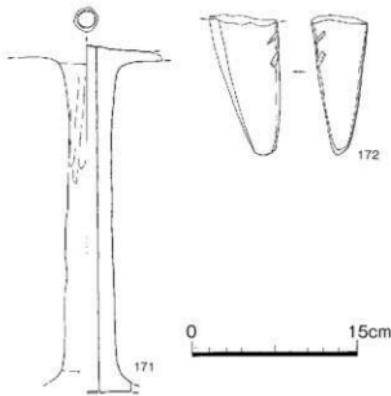


Fig.19 SD15 出土遺物実測図 14 (土師質 器台、支脚 1/3)

b. (148~153) 体部中位から上位に弱い屈曲を有し4類に近い。椀部の器高が4.4~5.0cmと低くなる。口径は15.9~17.2cmを測る。

#### 4類(155~160)

杯に近い浅椀の器形である。体部との境で屈曲した底部は緩く弯曲しながら中心へ下がる。155~157は近似した器形で、体部下位から器壁が厚くなる。椀部の器高は低く、4.1~4.5cmに収まる。156の高台は小さく退化している。159、160は器壁が薄く、体部が直線的に開いていく。158は3類に近いが高台が小さく退化している。

#### 畿内系(154)

154は銀化し、器壁が薄く他と異なる。内面のミガキは横位の平行線状に隙間多く回る。そのミガキに切られた3本の平行した線刻がみられる。

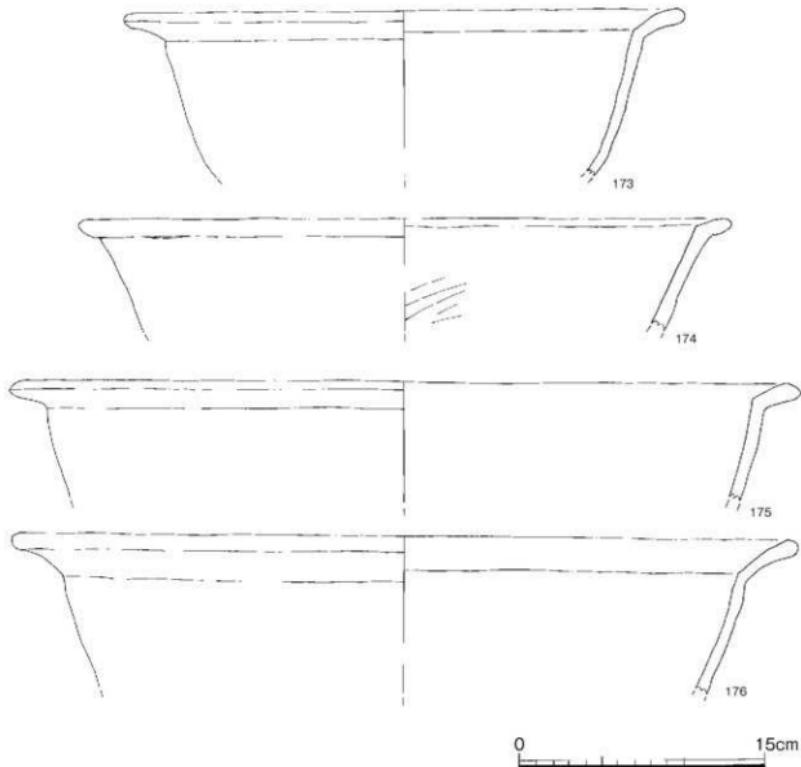


Fig.20 SD15 出土遺物実測図 15 (土師質 鍋 1/3)

#### 黒色土器・瓦器(161、162)

161は黒色土器、162の瓦器楕高台は断面方形状を呈す。他にこの時期の遺物は少ない。

#### 須恵質捏鉢(Fig.17 163～167)

東播系捏鉢と思われる。166が最も時期が降り第2期第2段階(12世紀末～13世紀初頭)とみられる。他は第1期第2段階～第2期第2段階の12世紀前半に置かれるものと思われる。

#### 瓦質・土師質鉢(Fig.18 168～170)

168、169は瓦質、170は土師質である。火熱を受けている。

#### 土師質製品(Fig.19 171、172)

171は土師質の器台、172は土製支脚と思われる。火熱を受け脆い。胎土にスサを含む。

#### 土師質鍋

1類 口縁部が「く」の字に折れるもの

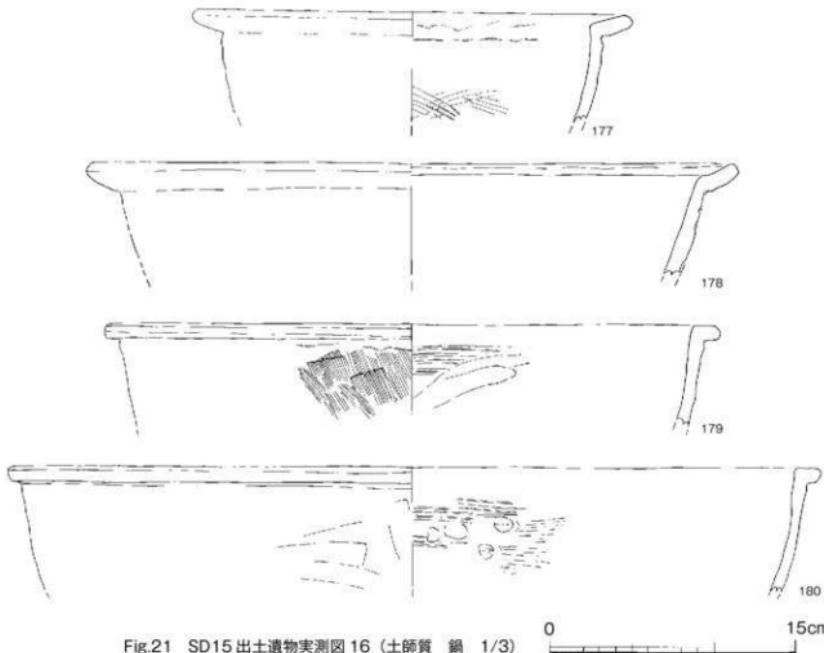


Fig. 21 SD15出土遺物実測図 16 (土師質 銅 1/3)

- a. 口縁部が外彎しながら長く延びるもの (173, 176)
  - b. 口縁部が短く直線的に延びるもの (174, 175, 177, 178)
  - 2類 口縁部が外側へ水平に張り出し、体部の開きが小さいもの
    - a. 口縁部が短く張り出し、端部が面取りに近い。(179, 180)
    - b. 口縁端部は丸く收められ、その上面に縄目の圧痕が付く。「肥前系」と称される。(181 ~ 183)
  - 3類 金属器を模倣した口縁部である。
    - a. クランク状に折れ曲った口縁部である。胎土が細かく密である。畿内系叢入品とみられる。(184)
    - b. 内彎した口縁部である。(185, 186)
  - 4類 (189) 断面三角形状の短い口縁部を呈し、器厚で内彎した椀形の体部である。火熱を受け、内面は荒れている。
  - 5類 (187, 188) 浅く熔接に近い。
- 187は火熱を受け、煤が付着している。内面に線刻状の擦痕がみられる。188は平底で指押痕が著しい。火熱は受けず、内面はあれていない。

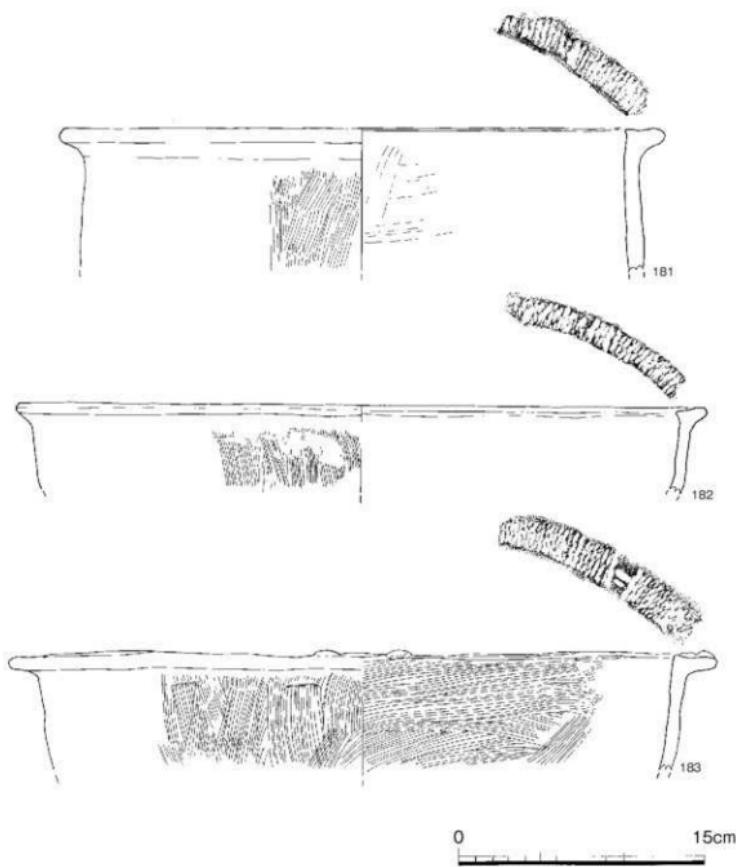


Fig.22 SD15 出土遺物実測図 17 (土師質 鍋 1/3)

### 石鍋

#### 1類 (190～193)

鍔がめぐるもの。12世紀初頭を境に2類の方形取手から鍔に変化すると言われている。体部が内弯し、鍔の端部が面取りされているもの（190、193）、体部が直に近く、鍔の端部が細くなり面取りされているもの（192）、体部から口縁にかけて開き、鍔端部は丸みがあるもの（191）に分かれる。

#### 2類 (194～198)

縦形の方形取手が付くもの。大きさから小（194～195）、中（197）、大（198）の3種がある。器形からは体部が内弯するもの（196、198）、体部の内弯が小さいもの（195、197）、体部が弯曲せずやや開くもの